



江名子川 (17日午前11時20分)

土砂崩れや河川の氾濫など 各地で被害が発生

記録的な豪雨により、市内各所で大きな被害が発生しました。8月22日時点における被害状況は次のとおりです。

- 住家損壊 1棟
- 床上浸水 23棟
- 床下浸水 151棟
- 農地被害 134カ所
- 道路被害 345カ所
- 橋りょう損壊 2カ所
- 河川被害 169カ所
- げけ崩れ 184カ所

記録的な大雨、各地を襲う自然の驚異

8月15日から18日まで降り続いた雨は、16日から17日の2日間にかけてピークに達し、観測史上最も多い320mmを記録しました。高山地域の観測地点では、17日の午前8時から9時の1時間に57mmの降水を記録。この1時間雨量は、平成16年10月20日の台風23号時と同じ値で、8月の観測記録では過去最多となりました。

避難勧告を各地に発令

市は17日午前8時45分に災害対策本部を設置。同時に荘川町一色に避難勧告を発令しました。

以後、清見町菓野侯や西之一色町、久々野町無数河、国府町上広瀬など、同日午後3時までには9,243世帯、2万3,930人を対象に避難勧告を発令しました。

平成16年の台風23号をはじめ、各地で過去に起きた豪雨災害の教訓を生かしつつ、気象庁の予報や市が委託する民間気象情報会社の最新情報を得るなど、さまざまな判断材料を検討し、素早くきめ細やかな避難勧告を発令した今回。防災行政無線屋外拡声器や防災ラジオ、広報車、ホームページ、メール配信などをフル活用し市民周知に努めました。

また、外国人観光客向けに設置した無料公衆無線LANを用いて、当時滞在中の約700人にメールで危険な

状況を知らせる初めての取り組みも行いました。

なお、大雨のピークが過ぎた18日午前8時30分、避難勧告を解除しました。

地域の結束と素早い行動

今回の避難勧告に際して、町内会長や民生児童委員、消防団員など多くの地域の皆様の力が市民の命を救いました。

豪雨の中で住民に避難を呼びかけたり、安全な避難誘導を行うなど、各地で結束した素早い行動がありました。

また、豪雨から一夜明けた18日には災害ボランティアセンターが市社会福祉協議会内に設置され、被害にあわれた住宅などには、近所の方々をはじめ多くのボランティアが駆け付け、復旧作業に取り組みました。

※現在、災害ボランティアセンターは活動を終了しています。

国に早期復旧を要望

19日には政府調査団が高山市を訪れ、護岸が崩壊した西之一色町の苔川や橋が2カ所流された清見町の川上川を視察しました。

これに先立ち市役所で行われた説明会で、國島市長は古田知事とともに調査団長の亀岡^{かめおか}^{たけみ}^{たけみ}内閣府大臣政務官に「早期復旧の支援をお願いしたい」と要望しました。



亀岡団長(左2人目)に要望書を手渡す國島市長